



「命」が一番大事なものの

いがファミリーフェスタ 2015 (2月6日)



▲講師は、命の大切さを語りました。

ゆめぼりすセンターで、伊賀市社会教育委員主催のいがファミリーフェスタ 2015 が行われました。

第1部では、助産師の林みち子さんが「いのちのおはなし」と題して、赤ちゃんがどのようにおなかの中で育っていき生まれてくるのかを、子どもにもわかりやすく説明しました。第2部では、学生による交流の広場を開き、風船で花やハートの形を作って配ったり、電車模型の運転体験で参加者とふれあいました。

この日は、親子あわせて59人が参加し、いのちの大切さや子育てについて考える日となりました。



▲交流広場で行われた遊び。黒い線をたどる車に興味津々の子どもの様子。



知識とおもてなしの心を学ぶ

いがうえのボランティアガイド養成講座
(2月13日)

ハイトピア伊賀でいがうえのボランティアガイド養成講座が開催されました。

これは、新たにボランティアガイドとして活動してくれる仲間をつくろうと、カルチャーボランティアガイドいがうえの語り部の会の主催で行われているものです。

この日は、(公財)芭蕉翁顕彰会学芸員の増田雄さんによる「芭蕉と伊賀上野」と題した講義が行われ、芭蕉翁の生涯を振り返りながら、近年の研究により明らかになってきたことなどを交えて、ふるさと伊賀との関わりについて学びました。



▲(写真左上) この日は、26人が受講しました。

(写真右上) 講義後、芭蕉翁記念館で早川研究員の解説を聞きながら企画展「俳諧と近代俳句展」を鑑賞する受講者。

◀芭蕉翁の旅姿を表した俳聖殿の歴史や特徴を学びました。

季節を感じる和菓子づくり

お干菓子づくり体験講座 (2月15日)



▲完成したお干菓子

青山公民館で、図書室公開講座おはなし広場を開きました。伊賀の伝統や文化を身近に感じてもらうために開いているもので、今回は和菓子職人の中村伊英さんを講師に迎え、お干菓子づくりに挑戦しました。昔から使われている型抜きを使い、おひなさんやぼんぼり、桜、ちょうちょなどの形をしたお干菓子10種類を作りました。

この日は10人が参加し、季節を感じられる伝統的なお干菓子づくりを楽しみました。



◀講師の手本を真剣に見る参加者。

▼木型との間にすき間ができないように確認しながら、生地をしっかりと詰めてお干菓子を作りました。





町家で祝う桃の節句

伊賀上野・城下町のおひなさん
(2月20日～3月3日)



本町通り周辺を中心に、伊賀上野・城下町のおひなさんが3月3日まで開催されています。今年も「観る」「食べる」「体験する」をテーマにさまざまなイベントを行っており、会場となる町家や商店など約60カ所には愛らしいひな人形が多数展示されました。そのほかに、会場を巡るクイズ&スタンプラリーやおひなこけしの製作体験なども行われ、訪れた人は、春の城下町や愛らしいおひなさんと過ごす一日を楽しんでいる様子でした。

▶おひなさんの絵手紙展の様子。
▼旧沖森邸では、趣向をこらしたひな人形の展示や製作体験などが行われました。



お知らせ拡大版

お知らせ

催し

募集

まちかど通信

コラム

図書・救急など



本紙 10 ページの「伊賀市生活排水処理施設整備計画」について、わかりやすく解説します。



こども広場 「下水道の役割」

わたしが使った水を
きれいにしてくれています

みなさんは、自分たちがトイレやお風呂などで使った水が、どこへ、どのように流れていくのか考えたことはありますか。使ったあとの汚れた水が、そのまま川や海に流されると、水が濁ったり、自然を汚してしまいますよ。

そこで、汚れた水を、一旦下水道処理場という施設に集めます。下水道は家庭の台所、水洗トイレ、お風呂や工場などから出る汚れた水を、地下に埋められた下水道管に流して処理場に集め、きれいな水にして川や海に流します。このため、川や海が濁ったり汚れたりすることを防ぎます。

下水道処理場は
リサイクル施設としても活躍

もし汚れた水がそのまま住宅周辺の溝に流れると、蚊・ハエ・悪臭などが発生する原因になってしまいます。そうならないために、下水道には汚れた水を地下に埋められ

た下水道管へ流し、住宅周辺の環境を良くする役割があります。

また、下水道処理場で処理した水は、田んぼや畑で使う水として再利用され、きれいな水を作るときにできる汚泥(汚れた泥)は、肥料などへ再利用されています。

最近では、汚泥をエネルギーとして利用する技術も開発されています。

下水道を整備する計画を進めています

現在、市では、まだ下水道が整備されていない場所について、いつ、どこから、どのように整備をするのが一番効率が良いかを考えています。そして、整備にかかるお金を計算したり、地域の特性や住民の意見を取り入れながら、今後の整備計画を作っています。

みなさんも学校や家で水を使うときは、自然環境や生活環境のことを考えてみてください。もちろん、水を大切に使うことも忘れないでくださいね。

【問い合わせ】 下水道課

☎ 43・2319 FAX 43・2320